

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立宮原小学校協議会

1. 総括についての評価

学校は、「あかるく やさしく たくましく」の校訓のもと、めざす子ども像「明るく前向きに学ぶ子」「優しく思いやることのできる子」「粘り強く取り組む子」を育てるために、学校教育目標「一人一人の子どものよさを見つめ、可能性を引き出す教育の推進」をかけ、教職員一同全力で取り組んでいる。

本協議会は、この事を踏まえ、学校の自己評価や評価資料を検討し、本協議会としての学校評価を行った。昨年度に引き続き学校は、集めたデータを分析し、過年度との比較を行い、学校改善に向けたP D C Aサイクルを実践している。

本年度の学校の自己評価結果にあげられた次年度への改善点を踏まえ、学校はもちろん保護者や地域、ならびに関係諸機関が一丸となって、今後の学校改善に協力し続けていただく事を期待する。

2. 年度目標ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は82.4%で、85%以上に届かず目標未達。

②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度（0.97%）より微増（1.12%）で目標未達。

③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合は増加（50%→67%）したので目標達成。

④小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合は94.3%で、90%以上となり目標達成。

⑤小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合は78.4%で、80%以上に届かず目標未達。

評価 目標に届かない項目もあったが、目標値との差は大きくなかった。日々の声掛けやアンケート実施、そしてその結果を引き続き生活指導に生かしていただき、次年度以降の改善に期待する。目標達成している項目については、引き続きの取り組みをお願いする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は37.6%で40%以上に届かず目標未達。

②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比の、同一母集団において経年的な比較は、4・5年生で上回ったものの、6年生で前年度より下回ったので目標未達。

③児童アンケートにおける健康生活に関する内容（運動、給食、睡眠）で肯定的に回答する児童の割合は前年度（運動：79.3%→76.9%、睡眠：75.8%→72.7%）より減少し目標未達。給食については93.6%で85%以上となり目標達成。

④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は71.3%で65%以上となり目標達成。

評価 目標に届かない項目もあったが、目標値との差は大きくない。さまざまな教育活動の中で話し合い活動を取り入れることや、安心して発表できるよう、各学年に応じた発表の話型を取り入れる工夫を図っていただきたい。また、健康生活に関する面については、家庭と引き続きの連携をお願いする。目標達成している項目については、引き続きの取り組みをお願いする。

【学びを支える教育環境の充実】

①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数は、年間授業日の49.1%で50%以上に今現在届いていないが、年度末に向けて目標は達成できそうである。

②第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1※を満たす教職員の割合は今現在97.3%で84.2%以上となっており目標達成見込み。

※基準1 次の2点の基準を満たすこと

- ・1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない
- ・1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない

③児童アンケートにおける「本をよく読んでいる」の項目について、肯定的に答える児童の割合は71.5%で75%を下回り目標未達。

評価 目標に届かない項目もあったが、目標値との差は大きくない。読書の項目に関しては、「本をよく読んでいる」の基準があいまいで分かりにくいため、具体的な目標（週に○回は読書の時間をとっているなど）を設定するなどの工夫をお願いする。目標達成している項目については、引き続きの取り組みをお願いする。

3. 今後の学校運営についての意見

学校は子どもたちのためにさまざまな取り組みをされ、一定の成果を上げている。昨年度来、国語科だけでなく他教科でも話し合い活動の様子が見られるということからも、一定の研究成果が表れている。

また、全国学力・学習状況調査や大阪市小学校学力経年調査の結果が、大阪市平均や全国平均を上回る正答率を得ることができておらず、日々の取り組みを通しての学力向上が数値として表れていると言える。

来年度は、目標未達の年度目標はもちろん、目標達成している年度目標に関しても、さらなる向上を目指していただきたい。また、中期目標達成に向けて取組内容や指標を改めて検討していただき、いっそう創意工夫ある教育活動の展開を期待する。